

第16期町田市立図書館協議会

第6回定例会議事録

日時：2016年2月25日（木） 午後3時00分～午後4時30分

場所：町田市立中央図書館 6階中集会室

■出席者

（委員） 山口洋、清水陽子、瀧桂子、久保礼子、鈴木真佐世
齋藤美智子、一川喜久子、砂川とき江

（計8名）

（館長） 近藤裕一

（事務局） 中嶋真（副館長）、吉岡一憲（担当課長）
佐久間隆司、陣内和之

■欠席者 増川知子、吉川篤

■傍聴者 2名

2016年2月25日

第16期図書館協議会 第6回定例会次第

《議事録確認》

・第16期 第5回定例会

《館長報告》

1. 教育委員会（第11回） 2月5日（金）

<報告事項>

○「忠生遺跡 縄文時代」展の開催について（別紙資料1参照）

2. その他

①平成27年度東京都多摩地域公立図書館大会結果報告

参加者	第1分科会	89名
	第2分科会	131名
	第3分科会	65名
	第4分科会	68名
	第5分科会	127名
	第6分科会	90名

②第10回子ども読書活動推進計画推進会議

2月16日（火）

③「忠生遺跡 縄文時代展」（生涯学習総務課と共催）

2月16日（火）～2月28日（日）

④利用者懇談会（さるびあ図書館）

2月25日（木）

⑤「陸前高田市の被災資料修復展」（(財)町田市・文化国際交流財団と共催）

（別紙資料2参照）

2月27日（土）～3月13日（日）

⑥WEB-OPAC移動図書館対応開始

3月1日(火)～

⑦「藪内正幸展」(後半はまちだとしょかん子どもまつりの一環)

(別紙資料3参照)

3月8日(火)～3月27日(日)

⑧第5回まちだとしょかん子どもまつり(別紙チラシ参照)

3月23日(水)～3月27日(日)

《委員長、副委員長報告》

1. 生涯学習審議会経過報告

《協議事項》

1. 図書館評価について

《その他》

■議事録

○山口委員長 それでは、定刻になりましたので、第16期図書館協議会第6回定例会を始めます。

まず最初に、本日の欠席者ですが、増川委員と吉川委員がともに学校の公務の関係でお休みということになります。

引き続きまして、議事録の確認です。第5回定例会の議事録ですが、もう既に各委員の皆さんにはメールで案が回っていたかと思うのですが、特に訂正、加筆等はないようですので、問題なければ、この案で確定としたいと思います。よろしいでしょうか。

では、第5回定例会の議事録は確定いたしましたので、事務局で公開の手続をお願いいたします。

本日は、この後、さるびあ図書館で利用者懇談会がございまして、その関係で30分ほど協議会は早く終了ということになります。

なお、さるびあ図書館ですので、中央図書館から近いですから、もしお手すきの委員さんがいらっしゃったら、そちらにもご参加いただければと思います。

それでは、早速館長報告に入りたいと思います。館長、お願いいたします。

○近藤館長 それでは、館長報告ということでレジュメをご覧ください。

1点目が2月5日にありました教育委員会の報告になります。

こちらは1枚めくっていただいて、資料がついてはいますが、「忠生遺跡 縄文時代展」の開催ということで、図書館と生涯学習総務課で共催している事業の報告をいたしました。

内容といたしましては、忠生図書館の多目的室で2月16日から28日まで12日間行うというものです。ご存じかどうかはわかりませんが、忠生遺跡というのは関東地方でも有数の大きな遺跡ということで、地元の図書館がある忠生から出た遺跡とか縄文時代の土器等を展示して、地元のこと、あるいは郷土の歴史をお伝えするいい機会ということで開催することにいたしました。

あと、ギャラリートークも、実際に発掘調査を担当した学芸員の方をお願いして行うということになっております。

それが1点目の教育委員会の報告になります。

2点目がその他ということで何項目かあるのですけれども、1点目が平成27年度東京都多摩地域公立図書館大会結果報告ということで、前回、開催のお知らせをいたしましたけれども、2月2日から4日までの3日間にわたって多摩市の関戸公民館で行われました。分科会の参加者の人数をここに記載してありますけれども、合計で570名ということで、一番少ない分科会でも65名、多い分科会だと130名ほどの参加がありました。もちろん、その中で一番占めているのは図書館の職員ということになるのですけれども、当日の参加者も、多分これは市民の方ということになると思いますけれども、17名から、多いところでは40名ほどの参加があったということで、成功のうちに終わったと思っております。

2点目は第10回子ども読書活動推進計画推進会議が2月16日にありました。こちらは第三次子ども読書活動推進計画があって、その進捗状況等を確認して、意見交換を行って、子どもの読書活動の計画を実のあるものにしていくという趣旨で開いておりますけれども、今回は新メンバーになっての第1回の会議ということになります。当日は委嘱状を交付いたしまして、各委員から自己紹介をしていただいて、初めての委員もいらっしゃいましたので、まず事務局から第三次子ども読書活動推進計画について簡単に紹介して、その後、これまでの4月から秋口までの各館の取り組み状況を報告して意見交換を行ったということになります。

3点目が「忠生遺跡 縄文時代展」の動きになります。これは先ほど教育委員会の方で報告しましたので省略いたします。

それから、先ほど委員長からもありました利用者懇談会の件ですけれども、お知らせするのが大変遅くなって申し訳なかったのですけれども、本日5時半からさるびあ図書館で行うということに決まりました。今年度、さるびあ図書館でやりましょうということはもっと早い段階に決まっていたのですけれども、なかなか日程がうまく調整できなくてぎりぎりで決まったということになります。

メインは、さるびあ図書館で開きますので、さるびあ図書館のサービス等についてご意見をいただく趣旨で行いますけれども、図書館全体のご意見を伺うつもりであります。

5点目が「陸前高田市の被災資料修復展」のお知らせです。資料の2番目をごらんください。これは、毎年、和光大学ポプリホール鶴川を運営している町田市・文化国際交流財団では、市民団体と共催でいろいろな震災に絡むイベントを行っていたのですけれども、今回、図書館にも正式に協力依頼があって、何かできないかということで、都立図書館が陸前高田市の図書館の郷土資料が津波等で傷んでしまったものを修復した事業を行った経過を展示するというのを企画いたしました。これは都立図書館でも展示を行っていましたが、その資料、パネルなどを借りてくるということと、実際に修復した道具を何点か借りてくる。あと、資料は陸前高田市の図書館に返してしまったのですけれども、それも数点借りてくることができましたので、それを展示することになります。2月27日から3月13日までの16日間ということです。

あわせて図書館では、行うのは図書館の下の交流スペースということで、中2階、図書館の同じフロアではありませんけれども、図書館のすぐそばで行いますので、図書館でも震災等に絡む資料等を展示したいと思っております。

次は裏のページに行きますけれども、6点目、WEB-OPAC移動図書館対応開始ということです。これはシステム更改のときに企画していましたが、同時スタートはやめましょうということにしていて、ここで3月1日にスタートすることにいたしました。

内容としては、インターネットで本の予約をするときに、図書館とか南町田の駅前連絡所とか、そういうところを選べるのですけれども、今までは移動図書館のサービスステーションは選ぶことができませんでした。今まで移動図書館で本の予約をしたいときは紙で予約をするという形だったのを、インターネットからサービスステーションで受け取りたいということができるような仕組みになります。3月1日9時ぐらいのスタートで対応していくつもりです。

7点目が資料3になりますけれども、「一動物の世界― 藪内正幸絵本原画展」ということで、1つは忠生図書館の開館を記念してということ、あと、まちだとしょかん子どもまつりの期間に合わせて、そちらの意味も含めて展示会を開催します。3月8日から27日までの18日間、お休みは第2木曜日の3月10日と3月14日の月曜日になります。展示内容は、動物の原画、鳥の原画等々になります。詳しくは資料をご覧ください。

最後は、もうご存じだと思いますけれども、3月23日から27日まで、まちだとしょかん子どもまつりを行います。チラシにスケジュール等が載っております。

また、お手元に、A3の両面で、この前に行ったアンケートの追加資料ということでお配りしました。この前、前回と今回の変更点等の質問があったのですが、明確にお答えできなかつたので、こちらで見ていただくと、何を追加したかわかると思いますので、後で見ていただければと思います。

報告は以上です。

○山口委員長 ありがとうございます。

それでは、確認、質疑に入りたいと思いますが、まず、教育委員会に関しては、忠生遺跡の件でその他のところと重なっているかと思いますが、先に忠生遺跡の展示会について、何かご質問、ご発言はございますでしょうか。

では、私から。これはまだ見学していないのですが、先週、生涯学習審議会がございまして、実はそちらでも生涯学習総務課から報告がありましたが、図書館を中心にして幾つかの機関、図書館は本の利用だけではなくて、地域の文化、情報を伝えるという点で、こういう取り組みはいいのではないかとということで、生涯学習審議会の委員からも非常に好意的に、むしろもっとやってほしいと社会教育委員の方からもお言葉がありました。

まだ私は見ていないので、これから行きたいと思いますが、あと何かいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

これはまだ開催中ということなので、実際どのくらいの人に来たかということとは後かと思うのですが、多目的室というと、ドアはついていますが、会期中は開放した状態で自由に入出りができるという感じですね。

○中嶋副館長 今おっしゃるとおり、お部屋としてはこの3分の2ぐらい、半分は場所を埋めているので、それぐらいで自由に入れるような形でやっております。実際に実物が置いてある形ということで、おっしゃっているとおり、ぜひ見ていただければと。人数は毎日数えてはいないのですが、第1回目のギャラリートークで30人来てしまったということで入らなくて、2回に分けてやったという話も聞いていますので、それぐらいかなり人が来ています。

○清水委員 今の忠生遺跡の展覧会のことですが、隣の小中学校からの

見学の予定などはありましたか。

○中嶋副館長 今のところ、個別に使われている方はいらっしゃっているのですけれども、学校そのものからは特に来ていません。

○山口委員長 よろしいでしょうか。

多目的室そのもので入場者数をカウントするというのは現実には無理だとは思いますが、こういう形でギャラリートークや何かで効果があるということアピールされると、図書館の中でこういった行事をいろいろ展開すると、それで利用者がふえる。それに関連して図書館のサービスにも目を向けるきっかけになるかと思うので、ぜひ今後とも企画をしていただければと思います。

○中嶋副館長 1点つけ加えさせていただきます。確かにおっしゃるとおり、多目的室に出入りする人数はカウントできないのですけれども、それなりに職員はフロアに出ていますので、わかる範囲では数はとっています。そこそこ数が出ているとは思っております。

○山口委員長 ありがとうございます。

では、続きまして、その他のところです。まずは平成27年度東京都多摩地域公立図書館大会の結果報告ということで出ております。かなり多くの参加者があったかと思うのですが、私も第1分科会、第2分科会に参加いたしました。また、町田市の図書館協議会からも何人かの委員がそれぞれの分科会に参加されているかと思えます。

簡単に感想といいますか、ご発言いただければと思うのですが、いかがでしょうか。たしか第2分科会に鈴木委員がいらっしゃいましたね。いかがですか。

○鈴木委員 第2分科会は児童サービスのところで、すごく関心があったのですけれども、最初の2つの事例報告も、市と図書館とボランティア団体だけではなくて、大学とかいろいろなところが一緒になって、会場も図書館だけでなく、商業施設のようなところも展示会場に使ってという取り組みが全市的な取り組みですごく参考になって、ああいうことがまた町田市でもできるといいなと思いました。

もう1つの学校でおはなし会をやる件も、福生市は学校数が少ないので、図

書館とボランティア団体が手を携えて、前もって本や何かも用意したりとか、そういうものができて、町田市はすごく学校数が多いので、福生市のようにはいかないのでしょうかけれども、できるだけ学校と図書館とボランティア団体がもう少し密接に手を組んで、そういうことができるといいなと思いました。

それから、東京子ども図書館の内藤さんのお話も、選書のこととか、本当に真剣に1冊1冊検討している姿勢は、専門の職員の方がいらっしゃるということもありますけれども、文庫をやっている者としては、もう少し時間をかけて選書もしたいなということも改めて思いました。文庫の地図の部屋も、ぜひ訪ねてみたいと思いました。とても勉強になりました。

○山口委員長 ありがとうございます。ほかの分科会、では、清水委員、いかがですか。

○清水委員 私は第3分科会、第4分科会、第5分科会、第6分科会と見たのですけれども、それぞれに知らないことがたくさんあって勉強になったのです。

特に第4分科会で郷土資料のことについて小平市の方が発表されたのですが、郷土資料の大切さとか可能性、地域課題に寄り添ってというのが、まさに郷土資料が充実していると、できることなのだなというのをすごく実感しました。協議会の皆さんでもしまだごらんになっていなかったら、小平市のホームページを見ていただくと、ドーンと郷土資料のページがあって、小平市にかかわる新聞記事検索だとか、そういうこともできるようになっていて、とても興味深く見させていただきました。

第4分科会の郷土資料、それから第5分科会でも、利用者の課題に寄り添う図書館として何ができるかということをお話していただいたので、すごく参考になりました。今日は資料が手元がないので、それぐらいしかお話しできないのですけれども、済みません。

○山口委員長 どうもありがとうございました。ほかにご出席なさった委員の方はいらっしゃらなかったですか。

私も毎年出るようにしているのですが、多摩地域という1つの地域に限定をしているところで、地域の特性を中心に見ていける大会ですので、日本図書館協会が行う全国図書館大会とか、あと図書館情報学関係の学会とはまた違って

地域性がよくわかります。

もう1つ、先ほど館長からありましたように、市民の参加が非常に多いですね。第2分科会の人数が一番多いですが、雰囲気を見ていると、恐らく文庫、おはなし会関係の市民の方がいっぱいいらしたなという感じがいたしました。そういうところで情報を共有していけるというのはすごくいい取り組みだと思うので、ぜひこれは今後ともこんな感じの展開をしていただければいいなと思います。

第2分科会は近藤館長、いろいろとご苦勞がおりかと思いましたがけれども、ぜひ例の文庫マップですか、前から鈴木委員からもご希望がありましたけれども、できれば町田市だけでも何か情報をいただけると、私たちも学んでいきたいと思います。

○鈴木委員 清水さんが報告してくださった市のホームページに郷土資料が載っているというのは、上の真ん中に郷土資料というのがあって、クリックをするとぱっとその下にいろいろなものが載っていて、あれはすごく市の宣伝というか、市のことを知りたいなと思ったらそこをクリックするといいいので、町田市はそういうものがないですね。どこを探したら郷土資料が見つかるのか、各図書館に来れば見つかりますけれども、その辺がちょっと真似ができたらいいなと思いました。

○山口委員長 郷土資料は地域を宣伝するという意味も出てくると思うのですね。例えば冊子にしても、ただつくるのではなくて、それを見てもらえるようなつくり方というのがあるので、後で報告したいとは思いますが、愛知県の方でなかなかユニークな取り組みをしている例があります。これからいろいろと改善の余地があるのではないかと思います。

では、公立図書館大会の件はよろしいでしょうか。

続きまして、②の第10回子ども読書活動推進計画推進会議、2月16日に会合があったということですが、これについて何かご質問などがありますか。

これは砂川委員が今度ご出席いただいているかと思しますので、どうぞお願いいたします。

○砂川委員 初めて参加させていただいたのですが、第三次町田市子ども読書活動推進計画というのを前にいただいていたので、取り組みとかいうこと

はほとんどが知っていることでしたけれども、改めて各担当の課の方が今取り組んでいることとか課題などをお話くださって、町田市でも子どものためにさまざまな活動をされていて、子どもが読書を楽しむためには環境がとても大切だと思います。

すごくいい取り組みをたくさんしていらして、ただ、私はたまたまこの冊子を見ていましたけれども、知らない方が多いのではないかと思うのですね。保育園の代表の方とか、幼稚園の代表の方も見えていましたけれども、初めて知りましたとおっしゃって、小学校、中学校のPTAの方々も初めて知りましたという方がいらっしゃったので、これからそういうサービスを必要としている人たちにどういうふうに伝えていくかが課題なのかと感じました。でも、これを全部必要な方それぞれが必要なときに利用したら、子どもたちにとっては素晴らしいと思いました。

○山口委員長 大変ありがとうございます。今ご指摘のあった知らない人が多いというのは、実は私も昨年まで委員をやっています、年2回ですので、その間に委員の交代があったりすると、その間に計画が草案から本稿に変わったり、委員が交代してしまうとゼロからスタートで、実はちゃんとトレースして読んでいらっしゃる方が余りいらっしゃらないのですね。

何期か連続でやっている委員の方は、そのプロセスを知っているけれども、ほとんどの委員の方はその都度その都度で入れかわってやっています。それで、せつかく計画を立てて報告しても、それに対する適切な意見は出にくいのではないかと思ったりしていたところでした。ですので、今の砂川委員の言われた伝え方というのは、やはりこれから課題かなという気がします。

ちなみに、今度は委員長はどなたになられたのですか。

○砂川委員 増山さんです。

○山口委員長 わかりました。

○砂川委員 増山さんが今日いただいた今回の「知恵の樹」で報告されました。

○山口委員長 今日配付されています町田の図書館活動をすすめる会の「知恵の樹」199号の7ページに増山委員長の文章が載っていますので、ぜひいま1度お読みいただければと思います。こちらで子ども読書活動推進計画推進会議

の活動は、結局、図書館の活動と関連があるので、協議会もその内容は注視していかないといけませんので、ぜひお読みいただければと思います。

○鈴木委員 さっき報告した多摩市の子ども読書まつり、ほんともフェスタというのは、実施団体は多摩市の子どもの読書活動推進連絡会、ちょっと名前が違いますけれども、同じようなところが実施団体になっているので、かなり広い団体がその傘下にある訳で、そこに大学などものっかって、大学の子どものために何かをする団体とか何かも入っているようなのですね。だから、この連絡会の中は市内文庫と図書館、学校の関係者、それから子育て総合センター、児童館、市内の大学3つとなっていて、町田市の場合は、今はここまでこの推進会議が直接かかわっている訳ではないですね。

だから、そういうところとも連携すると、もう少し幅広いかかわりが子ども読書まつりに、今、協力団体というのはボランティア団体ですね。すすめる会とか、いろいろな文庫とか何かなので、もう少し広がりが出て、全市的な活動になるには、そういうところがもうちょっとかかわれるといいのかなと。今の町田市の推進会議は、本当にそれぞれがやっている活動を何となく照らし合わせている、計画を聞き合い、また実施した結果を聞き合っているという感じで、もう少し踏み込んだ活動ができて1つの何かを一緒にするというのにつながるというかなと思います。今はどうしても縦割りで、子どもの本とか、子育てのこととかというところの横のつながりが薄いですね。

忠生図書館を見学したときにも、あそこは少し横のつながりが、外に出ていてただONでおはなし会をするとか、上の保健所がかかわっているものとか、いろいろちょっと横のつながりはできてきているのですけれども、そういうことがこれから発展的にかかわってくるといいのかなと。この間、聞きながら、町田市のことと合わせながら思いました。

○山口委員長 ありがとうございます。私も多摩市の事情がよくわかっている訳ではないのですが、多分多摩市とは少し位置づけが違うと思うのですね。子ども読書活動推進計画というのは各自治体でつくっているもので、それに対して、その推進計画推進会議というものです。これは今第三次となっています。

○鈴木委員 多摩市のは第二次となっていましたね。

○山口委員長 これの位置づけというのは館長いかがでしょうか。

○近藤館長 推進計画の位置づけですか。

○山口委員長 推進計画の会議の位置づけですね。

○近藤館長 推進会議の設置は要綱で決まっている訳ですけれども、これはそういうイベントとか催しをやるということを目的にしているのではなくて、推進計画で各課がいろいろな取り組みをしていきたいと思いますというのをそれぞれ報告し合って、進捗を見ながら、こんな工夫もあるとか、例えばこのところがもうちょっと連携するといいのではないかみたいなアイデア出しをするところと位置づけられていますので、鈴木委員がおっしゃったように、何かこの会議を主体にしてイベントを開くのを目的にしていけないというのは現実的にはあるということですね。

ですから、そういう意味では、多摩市の取り組みはおっしゃったとおり、商業施設でというところがすごくよかったかなと思いましたがけれども、町田市でそういう会場があるかどうかは別として、今後やっていくときに、今は図書館に関連しているボランティアの方が実行委員会を組織して子どもまつりをやっていますけれども、その実行委員会の部分を広げていく取り組みが今後できるかどうか。それなりにこちらの体力も要すると思うのですが、そういった取り組みを検討していくのかなというふうには思っています。多摩市の取り組みで一番よかったのは、図書館の外でやっているところかなと思いました。

○山口委員長 この会議とはまた別な動きをつくっていく必要があるのかもしれませんがね。よろしいでしょうか。

では、続きまして「忠生遺跡 縄文時代展」は先ほどチェックいたしましたので飛びまして、本日予定されています利用者懇談会、さるびあ図書館で実施予定ですが、これはまだこれからということなのですが、何かこの件についてよろしいでしょうか。

次です。これも予定になりますが、「陸前高田市の被災資料修復展」です。町田市・文化国際交流財団との共催ということで資料がございます。こちらについてはいかがでしょうか。

これはまだこれからですかね。開催期間は2月27日から3月13日ということですね。よろしいでしょうか。

では、次第の2ページ目、WEB-OPACによる移動図書館対応の開始、3月1日からということですね。こちらにつきましてはいかがでしょうか。

移動図書館は、この前の図書館の地域館視察の中でも見せていただいて、非常に使われている。町田市では3台走っていますから、それだけ需要があるということ、そこでネットによる予約もできるようになったというのは、利用者の利便性が高まったということで大変評価できることではないかと思うので、ぜひ今後の推移を見たいと思うのです。

一方では、ネットに予約というと急に数がふえて、例えばBMの中に予約本が詰め込めなくなるなどということが起こるのか、起こらないのか、こんなことは今言うことではないと思うのですが、逆にそのくらいの需要が出るのかどうかということでも考えたりも、今お話を伺って思っておりました。

ただ、あくまでもこれは予約で対応を開始ということであって、例えば移動図書館、BMで返却をすると、そこで完全に返却処理が終わるのではなくて、館に戻ってから最終的な処理ということでも伺っていますが、それはそのままということになる訳ですね。

○近藤館長 そうです。

○山口委員長 この件はよろしいでしょうか。

では次に、これもこの後、予定されているものですが、「藪内正幸絵本原画展」、こちら忠生図書館ですね。視察のときにも予定をされていることが説明されておりました。よろしいでしょうか。

最後に、8番目で第5回まちだとしょかん子どもまつりですね。本日の配付資料の中に黄色い小さいチラシがあるかと思います。こちらにつきましては、委員の皆さんの中にかかわっていらっしゃる方が多いかと思いますので、この場でご発言などをいただければと思います。では、久保委員から。

○久保委員 今度が5回目ですけれども、児童の担当の方と一緒に、それぞれ実行委員会に入っている団体が今最終のところまで詰めています。それぞれのグループが自分たちの出し物について、児童の担当の方と具体的に、みんなでそろっての話し合いと別途に、当日の具体的なプランニングについて最終の詰めをしているという段階です。あとは実行委員会企画のビブリオバトルとか、絵本の国際交流とか、そこら辺も最終の詰めを関係の館の人たちと行っていま

す。今のところはそんなところですよ。

○山口委員長 ありがとうございます。あとは学校図書館関係、清水委員、何かありますか。

○清水委員 学校図書館を考える会では、子どもまつりの参加の仕方は例年と同じように、ワークショップのような形でやるのですが、今回は科学遊びではなくて、絵本作家の方をお呼びしてワークショップをします。

今年の子どもまつりのパンフレットを見ていると今までと違って、今までは図書館は児童担当がかかわってくださっていたのですが、今回は奉仕ルームで点字を打つ体験だとか、本の装備をするフィルム張りの体験だとか、児童担当以外の方もいろいろかかわってくださっているのが特徴ではないかと思っています。

もう1つ、桜美林大学も参加してくださって、落語をやってくださるということで、ビブリオバトルも町田総合高校が運営にもかかわってくれるという話を聞いているので、少しずつ広がりが出てきているかなと感じています。

○山口委員長 ありがとうございます。ほかにかわられている委員さんは。

○鈴木委員 柿の木文庫は鶴川駅前図書館で26日の午後に、おはなし会室でおはなし会をさせていただきます。図書館の方たちと協力してやらせてもらいます。

○山口委員長 あと、砂川委員。

○砂川委員 まず、まちだ語り手の会でオープニングのおはなし会をさせていただきます。これは昨年と同様なおはなし会をします。幼稚園と保育園の子どもたちに、児童担当の方が声をかけてくださって、大勢お話に来てくれます。今年も同じように声をかけてくださっていたので、来てくださると思います。

あと、かえで文庫で、これも例年、柚山明子さんに来ていただいて、わらべうたをしていただいているのですが、昨年までは中央図書館のホールでしていたのですが、今年は文学館の2階の大会議室をお借りしてします。文学館では、2歳までの子どもたちでおはなし会をしていて、それが割と好評ですので、柚山さんが講師として文学館にも行っていらっしゃるのでは、今年も文学館で開催いたします。

○山口委員長 ありがとうございます。

○清水委員 図書館の方で今年もう1つ目玉があって、中央図書館の児童担当の方と中垣ゆたかさんという絵本も描かれているし、イラストのお仕事をされている方なのですけれども、この方を図書館が呼び出して、「ワークショップ『ぎょうれつ』をつくろう！」というのをやります。それと、忠生図書館で原画展をやるというのも、今までとは違う取り組みだったと思います。中垣ゆたかさんが文学館とのおつき合いがあるということで来てくださるとのことなのですけれども、行列ができるそうなので楽しみにしています。

○山口委員長 ありがとうございます。先ほどの忠生図書館の藪内さんの展覧会は、ちょうどまちだとしょかん子どもまつりと重なる時期ですね。この黄色いパンフレットは、図書館の方で配布をされているものですね。これを開きますと、内側に日程と中央館、各地域館、文学館の動きがずらっと見える訳ですけれども、第1回るときに比べますと、町田市の図書館全体でこの行事にかかわるような形にだんだん変わってきている。いい方向にあるなということですよ。今ご報告いただいた大学とか高校、外の機関が一緒になってやってくれるという点でぜひ進めていきたいことかと思えます。

生涯学習審議会でも宣伝はかけてあるのですが、あちらはどちらかというとな配の方が中心で委員を構成していますので、ぜひビブリオバトルはもうちょっと上の年代もどうでしょうか。できれば子どもだけではなくて、大人もどうでしょうかというお話がありました。ビブリオバトルは定番で最終日に行われる予定ですが、この件については和光大学でもいろいろとお取り組みがあるかと思うのですが、瀧委員、いかがですか。何か大学としてかかわれるような要素があったらおもしろいなと思えますけれども。

○瀧委員 済みません、今回、残念ながらまちだとしょかん子どもまつりには和光大学は協力していない形で残念だったのですが、実は「落語を楽しもう！」のところで学生さんにお声がけができませんかというお話をいただいたのですが、残念ながら落語研究会みたいなものがうちにはなかったものですから、そこではご協力することができなかつたのですね。

今後のところでは、なかなかすぐにはいかなくても、学生の中で本学の図書情報館の中にLet's Read Projectという学生の団体があります。それは学生と職員と一緒に本にかかわるいろいろなことを企画していこうという取

り組みをしているのですけれども、人数も少ないのですぐには難しいかもしれませんが、例えばそういう学生を少し巻き込んで何かビブリオバトルなり、何か小さなところでご協力していったりとか、そんなことが考えられないかなと今お話を伺いながら考えていたところです。

○山口委員長 ありがとうございます。ぜひ前向きに、特に和光大学では図書館の中でも独自にそういうイベントをされていますけれども、和光大学の図書館と町田市の図書館というのは大学図書館と公共図書館が協力関係で提携しているという点では、単に情報の利用、提供だけではなくて、そういう部分も出てくるとおもしろいなと思います。

生涯学習審議会のときに、今度出る提言の中の1つには、町田市近辺というのは学生、若年層が多い。そういう人たちも生涯学習の中に取り込んでいこうということが言われていまして、その中で彼ら自身が企画をし、または参加していける場所も必要ではないかという話がありましたので、そういうときに、こういうとしょかん子どもまつりがうまくつながっていくと広がりが出るのではないかと今見ているように思っています。

○久保委員 報告で追加ですけれども、鶴川駅前図書館の児童の担当の方が、この子どもまつりのチラシの絵がかわいいので、これに色をつけるという形で子どもたちに呼びかけて、色をつけたものをたくさんつるして飾ったりして、この子どもまつりをアピールするというか、盛り上げるというのをやりたいので、このイラストを描いた人に許可をもらってもらえませんかという電話をもらったのですね。もちろん、オーケーなのでお願いしますと言ったのですけれども、担当の人がそうやって自分で積極的にというのはすごくうれしいことだなと思いました。報告です。

○山口委員長 ありがとうございます。お互いにアイデアを出し合って盛り上げていくというのはいいですね。そういう中でぜひ参加者も積極的にいこうとか、こういうふうにやっていますよというので、それこそ周辺の高校、大学、何も町田市に限る必要はありませんから、近隣から引き寄せてきてしまうぐらいの集客力があると思うので、ぜひ盛り上げていったらいいかと思います。それに協議会が何かできることがあるかどうか、今後考えていきたいと思えます。

では、また当日、お時間がある委員さんはぜひご参加いただければと思います。よろしいでしょうか。

館長報告に沿って質疑をしてみました。以上です。

○中嶋副館長 資料の訂正を見つけましたので、申し訳ございません。

一番前の次第のところの2番その他の3の「忠生遺跡 縄文時代展」の末日が2月28日（月）となっていますが、日曜日の誤りですので訂正をお願いいたします。失礼いたしました。

○山口委員長 わかりました。結構です。

では、引き続きまして、委員長、副委員長報告ですが、私、委員長から報告です。

まず1つは、生涯学習審議会の報告です。2月17日に生涯学習審議会の最後の会合がございました。生涯学習審議会は、2年間の任期の中で、全部で定例会が13回あるのですが、その中で教育長からの諮問に対して答申を出すということで終わる会議です。今回の諮問で受けていましたのは、地域社会の課題に対応する生涯学習のさらなる充実に向けた拡充についてということで検討していただきたいという諮問をもらいまして、2年間検討してまいりました。

最終的な答申案というのは、まだ少し文言調整が動いているので、3月に、年度内に教育長に提出するということなのですが、前に生涯学習についての計画はでき上がったので、それをどう進めていくかということが今回の答申のメインになっております。

これを細かく見ていくと時間がありませんので、章立てだけ説明しますと、まずは町田市の現状ということで、今、町田の町はどうなっているのだろうかということで、地域の現状と地域コミュニティの状況、さらには市民活動がどうなっているかということですね。あと、そのところで先ほどもちょっと触れた単身者とか、特に学生の地域参加、若者の地域参加ということも取り上げる必要があるのではないかとということが表記されます。

その後、もう1つは生涯学習という概念が余りよく浸透していないのではないかと。そこで、そもそも生涯学習とはどういうものなのかということを知りやすく伝えていく努力をしなければいけないだろう。要するに、生涯学習というのは、全年齢に応じて行われるべきであって、学校教育と生涯教育と分かれ

るように見えますが、実は学校も含んでしまうという捉え方なのですね。実は教育委員会の方でもそういう位置づけになっているので、学校側もそのところはちょっと盲点でしたねというような話もございました。

では、町田市では現在、生涯学習がどういう状況になっているかというので、生涯学習部の取り組みや学校支援への住民参加とか、行政内部での生涯学習や民間の生涯学習、NPOなどの活動も検討いたしました。

最後に、これからの生涯学習の進め方ということで、実際に生涯学習のイメージを変えていかなければいけないのではないかと。あとは地域課題の解決を進める土台づくりが必要ではないか。あとは地域と人財——人の財産という字をわざと当てているのですけれども、そういうつなぐ仕組みとか、かかわる団体が連携するための仕組みづくり、さらには地域と学校を含んだ生涯学習の推進というようなことも検討されました。

詳しくは3月に答申が出ますので、それが出ましたらぜひ見ていただきたいと思いますが、1つ特徴があるとすれば、これは最後の方になって議論の話題になったのですが、生涯学習というと大体学校を市民が支援するという捉え方ですね。例えば学校で読み聞かせや何かをやる、おはなし会をやることを支援する。だから、学校側が受け身になっているような捉え方が多いけれども、実は子どもたち自身が今度は逆に地域にかかわっていく接点というのがつかれるのではないかというので幾つか事例の報告もあったので、そこら辺はむしろ学校側が地域にどう出ていくかということも、今後考えてみるといいのではないのでしょうかというような話ですね。そんなところが最後の方で出ておりました。

あと、図書館に関しては、今回の生涯学習の問題については、地域の問題は市民が地域で自分たちで解決をしていく、それを支えるのが生涯学習だと。これは前の計画を受け継いでいるものですからベースにあるので、そのときに図書館の持っている情報資源を提供したり、またはレファレンス機能によって課題解決に資することができる。それをもっとちゃんと伝えていかないといけないのではないかとというようなことが触れられております。

もちろん、図書館のことも含めてですが、もっと幅広く提案されているものですので、これについては答申が出たところで、提出されたところで公表され

ますので、ぜひまたこれをご覧になっていただいて、今後の活動にお使いいただければと思います。

審議会が終わりましたということで報告です。また、3月に答申が出ましたらば、それにつきましては委員に配付されますので、協議会の委員の方にはメールでお送りしたいと思っております。

私からの報告は以上ですが、これについて何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、委員長報告は以上にしたいと思えます。

それでは、協議事項で図書館評価についてということですが、これにつかまして吉岡担当課長から報告がありますので、お願いいたします。

○吉岡担当課長 図書館担当課長の吉岡です。よろしくお願ひいたします。

まず初めに、先月、図書館の外部評価をいただきまして、ありがとうございました。本来でしたら協議会の場でお礼申し上げるところなのですが、所用で欠席でしたので、改めてお礼を申し上げたいと思えます。ありがとうございました。

図書館評価に関する報告ということで、外部評価をいただきましたので、それに基づいて今、最終的なまとめの作業をしているところです。冊子をつくりたいということで、余り時間がないのですが、年度内に冊子を発行していきたいということで今準備しているところです。冊子としては、評価はお配りしておりますけれども、皆さんからいただいた項目別のコメント評価について、こういった形で左側にもともとこちらで書いていた「特記すべき取組」がありまして、それに対して右側に「外部評価者のコメント」ということで書かせていただいて、このような形でやっていくということです。まだまとめ終わっていないので、ちょっと時間がかかりそうですけれども、そのようなことで作業をしておりますということのご報告をさせていただきます。

その上で、いただいたコメントの内容をプロジェクトチームで確認させていただきまして、幾つか字句の誤り、5カ所ぐらいあったのですが、それについては委員長と連絡を取り合ひまして直させていただくということをご報告させていただきます。

それから、一部補足、追加したいところ、あるいは誤りも発見しましたの

で、それについて今日お話ししたいということで資料を出させていただきました。

先に説明だけ通してしてしまいたいと思うのですが、まず、A4の片面だけの資料ですが、評価シート12番の障がい者サービスについて、こちらについて注ということでつけさせていただいた方がいいのかなということで今回お話ししたいと思います。

「外部評価者のコメント」の上から5行目のところ、「視覚障がい者の登録率15.5%」ということがありまして、これは数字がどのようにして出てきたのかを補足した方がいいのかと思ひまして、これについては注1ということで「障がい者手帳を持つ市内在住の視覚障がい者の人数より算出」というような注をつけさせていただくということにいたしました。

それから、その下の注2ですけれども、サピエですけれども、一般の方が見るとサピエというのは何なのかわかりづらいかと思つたので、このような形で「目で文字を読むことが困難な方々に対して、点字・音声データ等で様々な情報を提供するネットワークシステム」ということで注をつけさせていただく方がいいのかなということで追加させていただいております。

それから、先ほどの注1の15.5%の数字のところですが、こちらは先ほど改めて確認しましたら、視覚障がい者で利用登録されている方が155人で、そこに書いてあるように、市内在住の視覚障がい者の人数が1061人になります。計算すると14.6%になりますので、その訂正もあわせてということでお願いしたいと思います。

繰り返しますが、「15.5%」は「14.6%」、それから注1と注2をつけたということでございます。

続いてですけれども、その次、シート番号6に数字の誤りがありまして訂正をさせていただきたいということです。こちらの督促のところですが、督促の資料の点数ということで出していたのですが、確認しましたら誤りがありまして、左の方の修正前ですけれども、「ハガキ連絡点数」とあったのですが、これは「ハガキ枚数」の間違いです。点数としては1桁違つていまして、それについてはハガキ連絡点数、メール連絡点数、あとここに載っていない電話連絡点数がありますので、それを一括でまとめてしまつて右側の数字、全部

まとめて14万ということになりますので、これで訂正させていただきたいというのが1つでございます。

それから、次のページ、シート番号8番、リクエストの数ですけれども、こちらが数字を足し込むときに誤りがありまして、具体的には堺図書館です。堺図書館のリクエストの件数、修正前ですが、こちらに小山市民センター、これは堺図書館と処理していることがありまして、堺図書館にその数字が入ってしまったのですが、表をよく見ると、各市民センターというのが別がありまして、要は市民センターに堺図書館と小山市民センターと2つ入ってしまって、ダブルカウントになってしまっておりました。それが今回精査してみてわかりました。それについては正しくして、堺図書館の数字を正しくするという事によってこのような形にしております。この数字できちんと合っているということになりますので、このような形で訂正させていただいて、以上3点になります。よろしくお願ひします。

○山口委員長 ありがとうございます。まず、障がい者サービス、シートの12番、数値に関しては登録率の問題が1点、あとは今後の外部評価者コメントを我々が書き込むときの注意点になるかもしれませんが、根拠となる数値とか、特に我々はサピエという言葉は協議会でふだん使っているのわかるのですが、やはり一般の方、利用者の方にわかるようにということで、適宜注を入れられるのですね。去年までの評価だとそんな余裕はなかったのです。記述が中心の評価ですので、こういう形で入れていくというのはいいのではないかとということで、吉岡さんと館長と私の方で相談して、こんなスタイルにいたしました。ですので、次回から我々の方でも積極的にこういう手法を使っていくということでいいかと思ひます。

あと、数値の算出等についてのミスということ。特に閲覧貸出の督促の方では、2014年度はこれでいきますが、2015年度、今度新システムになると実際には、今後とも督促点数のみで通すということによろしいですかね。わかりました。

はがきとメールと電話という、業務量の違い、さらには経費の違いもありますから、ここで評価の数値として使うかどうかは別ですが、今後ともメールやネットでのやりとりも増えてきている訳ですので、そこら辺の推移はぜひ継

続してチェックしていただいて、また方策をとということで役立てたいと思いますので、お願いいたします。

ここについてはいかがでしょうか。特に外部評価者のコメントに影響を与える数値の移動ではないので、私の方では問題なしと判断させていただきましたけれども、よろしいでしょうか。

では、そういうことでよろしいでしょうか。

特に評価書でも書きましたけれども、2014年度は途中からシステムが変わったり、状況が変化していますので、むしろ2015年度からの数値が勝負になるかと思います。ぜひきっちり数字を出していただいて、我々もそれを経年変化で見えていくということで生かしていきたいと思います。

○瀧委員 1点だけ、資料閲覧貸出の予約資料貸出返却のところの外部評価者のコメントが「予約実現率100%」と書いてあるのですが、こちらの表で実際に見ると予約実現率99.9%になっているのですね。そこは、そちらの数字に合わせた方がいいのではないかと思ったので、申し訳ないのですが、後でよろしくお願いいたします。

○山口委員長 ありがとうございます。これは見落としですね。

吉岡さんに確認ですが、提出された数値で堺図書館のところが変わりますが、これは予約実現率等への影響はないのですね。

○吉岡担当課長 大丈夫です。

○山口委員長 これが確定数なので、これは私の方で見落とししていました。外部評価者のコメントの100%は99.9%ということになります。

あとはいかがでしょうか。よろしいですか。

では、図書館評価の訂正等については以上とします。これについては、来月は定例会がございませんけれども、今後、内容を今ご検討いただいているかと思うのですが、それについて図書館側から何かご質問とか、または意見交換を今まで何回か外部評価の方でやっているのですけれども、それについてはいかがでしょうか。

○吉岡担当課長 先ほどお話ししましたように、いただいて今、冊子をつくっているところです。特に今後大きなやりとりはなくても大丈夫かと思っていますので、もし何かありましたら委員長と連絡をとりながらということで進めた

いと思います。

○山口委員長 何かあれば、とりあえず4月以降の定例会でという形になるか
と思います。

あと、冊子等ホームページなどでの公開というのは、目標としてはいつごろ
を今お考えでしょうか。

○吉岡担当課長 先ほどお話ししましたように、もう2月末ですので、3月末
ぎりぎりになってしまうかと思いますが、なるべく早くということで努力した
いと思います。

○山口委員長 お願いいたします。今回はやり方が変わったので、我々外部評
価者側も時間をかけました。年度をまたぐか、ぎりぎりかというのはいたし方
ないかと思いますが、次回からぜひうまくスケジュールどおりに進めていける
ようにやっていきたいと思います。

では、外部評価についてはいいでしょうか。

予定されている次第内容については以上ですが、あと、その他でこの場で何
かご提案とかご発言または情報提供などがございましたらお受けしたいと思
いますが、いかがでしょうか。

○瀧委員 先ほど追加資料として前回ご質問させていただいたアンケートの変
更点について、ありがとうございました。

アンケートというのは、例えば図書館でアンケートを出すということであれ
ば、その図書館でどのようなところを重視して見ているかですとか、今後ど
ういうところを目的にして変えていくというところが出るところですし、もう1
つは、利用者の方に出すことで、今まで知られていなかったことをアンケート
をつけることで知っていただくという目的もあると考えていまして、それで質
問させていただいた訳です。そういう意味で今回出させていただいたものを確認
させていただいて、今後いろいろ考える参考にさせていただきたいと思いま
す。どうもありがとうございました。

○山口委員長 ありがとうございます。アンケートは3年に1回ということ
でなされている訳ですが、今回は特に外注をしないで館内でということ
で、業務上なかなか大変かと思うのです。逆に大規模なアンケートは3年に1回
でおやりになるといいと思うのですけれども、細かい簡単なアンケートとか、地域館

ごのようなアンケートというと、意外ともっと手軽にできるのではないかというの実は我々も考えていまして、この1月、2月、ほかの自治体の図書館を幾つか見てきた中で、日常的に簡単なアンケートをとっている例があるのですね。

ですので、数値としてきっちり出すというのも大切ですが、一方では、リアルタイムに利用者の意見を吸い上げていただくという点で、そういったアンケートのとり方もあっていいのかなと。

今回のアンケートも、ちょうど視察の最中にぶつかっていて、実は私ですらで知ったものですから、事前にやりますから来てくださいというアンケートにならないかもしれませんが、できればいつでも意見が出せるような雰囲気もこれからますますつくっていかれるといいかと思います。お仕事の業務量をこなすのがなかなか大変だというのはよくわかるのですが、そういうところもぜひご検討いただければと思います。

あとはいかがでしょうか。

○一川委員 先ほどの項目に戻るのですが、利用者懇談会の対象はどういう方が集まるのですか。利用者懇談会の目的はどういったものですか。

○近藤館長 目的は、もちろん日常の図書館のサービスの中で利用者の方からいろいろな声はいただいていますけれども、個別にということではなくて、一般の利用者の方から、市民の方から図書館に対する質問とかご要望をいただいて、それをこちらでお答えして、それを参考に図書館のサービスの充実を図っていききたいということになります。

利用者の声とかで書面でいただく場合もありますけれども、それは1対1のやりとりが町田市の場合はなかなか難しいので、そういった会を開いて、ある程度参加者の中でやりとりしながら、場合によっては参加者同士のお話も、テーマによって、今回はテーマを決めていないのですが、テーマを決めてやる場合は、利用者の方同士の討論でいいお話になることもあるので、そういったことも含めて、一番の目的は図書館のサービスのあり方の参考にしていきたいということです。

○一川委員 それは、どういう形で皆さんにお知らせするのですか。

○近藤館長 今回については館内の掲示とホームページです。もっと日程的に

早く決まっている場合は、広報とかに載せたときもありますけれども、今回は広報は間に合わなかったのです。

○一川委員 そうすると、毎年、何人ぐらいの参加があるのですか。

○近藤館長 毎年開けていないので、開いたり開かなかったりですけれども、多いときは、例えばオープン20周年のときにお祭りのことを開いたときに、それとの流れでやったときは、そういった方が参加していただいたので、多分30名とか40名いらっしまったと思うのですけれども、通常は10名ほどかと思います。

○一川委員 ありがとうございます。

○山口委員長 よろしいでしょうか。

○鈴木委員 せっかくだから、もう少し何か知らせる方法を工夫して、できるだけ多くの方に出席していただければ。全館でやる訳ではなくて、今年はさるびあ図書館だけで、さるびあ図書館の人しか知らないのですか。ほかの館にもお知らせが出来ますか。

○近藤館長 もちろん、さるびあ図書館で開きますというのは全館的に承知しているはずですが、今回はこちらの不手際もあって決まるのがぎりぎりだったので、お知らせでは物足りないところがあるのかと思います。

ただ、今回はさるびあ図書館でやるということなので、できればさるびあ図書館の話題をテーマにしたいということですので、地元の町内会の方などにご案内は差し上げているところです。

○山口委員長 今回は急遽決まったということで、ホームページにはお知らせで載っていましたが、できれば年間計画の中に盛り込んでおいていただくと事前に広報が行き届くかと思います。そのような形でぜひよろしくお願いいたします。今日ありますので、お時間がある委員の方はどうぞご参加ください。

あと何か、よろしいでしょうか。

私から1つ情報提供があります。2月21日（日）ですが、京都の立命館大学で日本図書館研究会、大阪に本部があるのですけれども、そこの大会がありまして参加してまいりました。

その中で町田市でもかかわりがあると思うのですが、学校図書館、学校司書の問題について継続研究が行われていることを知りまして、担当された方とお

しゃべりする機会を得たのです。今、何をやっているかという、これはまだ制度として出ていない訳ですが、学校司書の資格要件をどうするか、文部科学省が方針を出していないので、研究者レベルでどういう科目を入れたらいいだろうかというのが考えられていて、要するに司書、司書教諭で補えばいいと考えると、司書教諭と学校司書の2本立てという2つの考え方があるそうです。ここでは2本立ての方の学校司書という資格を念頭に置くと、どういう科目が必要かという議論でした。

ざっくり言いますと、司書教諭にかかわる科目と図書館司書にかかわる科目、あとは障がい者サービスとか生涯学習というのをあわせたような形で、単位数でいくと30ぐらいで司書教諭よりかなり多いのですね。そういうものを想定しているようでした。もちろん、それがそのまま実際の制度になるという訳ではありません。

ただ、そこで意識されていたのは、学校だけれども、学校だけではなくて、公共図書館についての知識も持っていないとだめだろう。つまり、協力関係を持つ上で必要だろうというところは意識されていたので、私としてはちょっとほっとしたところがあります。

特にその中で実際に現場の学校司書の方たちが中心になった報告では、今、実際に働いている人をどのようにその制度の中に移行しようかということも視野に入れているのですね。そうすると、町田市のように既に現場におられる方に、例えば資格要件が出たときにどうするのか。そういうときに、例えばどういう部分を勉強してもらわなければいけないのだろうかということ現場のレベルで業務分析して、それを既存の制度とすり合わせをするという継続研究が行われていました。そのうちまとまると、恐らくそこから文部科学省に提案という形で出ていく可能性もあると思うので、今後とも動きは見ていきたいとは思っています。

ただ、これがこれで決まりというものではないので、いろいろな取り組みが今動いていますということで1点報告させていただきます。

もう1つは、去年の図書館大会でも報告がありましたが、瀬戸内市、今度新しく図書館ができるのですが、瀬戸内市立新図書館開設準備室の嶋田学さんの報告です。こちらの報告では、公共図書館での高齢者サービスということで、

高齢者サービスのことに特化して実際に瀬戸内市でどんなことを取り組みつつあるかということを紹介していただきました。

この瀬戸内市というのは、市長さんみずから図書館は直営でやらなければいけないと宣言をし、いろいろなメディアでも取り上げられて、去年、一方でツタヤ図書館問題が出ている中で、瀬戸内市のそういう動きというのは注目を浴びた訳ですけれども、かなりしっかりした活動を進められています。まだ実際に開館にこぎつけてはいないのですが、もう事前の準備を相当入念にされていますので、ぜひ今後瀬戸内市の動きは見たいと思います。

その中でおもしろいなと思ったのは、公立図書館ですけれども、放送大学と結んで、例えば契約をして放送大学の持っている授業映像ですか、学習センターに行くと見られるのだそうですけれども、あれを図書館で見られるようにして生涯学習にバックしていこう。あとテキストをそろえるとか、そういうことが現実に可能なのです。ですから、そのようなこともやったりしているということをお話しておりました。ぜひ今後の展開を注視していきたいということで紹介させていただきます。

あともう1点は、今日は郷土資料がちょっと話題になりましたけれども、小平市の例ですね。もう1つは、愛知県の津島市立図書館ですが、こちらはもう明治から続く図書館ですけれども、ホームページは使ってはいませんが、冊子で新聞などの記事をずっと編年体で整備して現代までというので並べてあって、冊子を出したり、あと写真など地域で集めたものについて、いろいろその状況を記録してホームページで冊子で公開しているのかな。たしか地域の写真の公開に関しては文部科学省から事例として紹介もされた訳です。それをもとにした報告などもありました。

外部評価でたしか地域資料について町田市もぜひデジタルアーカイブ化などを考えただければということをお話した訳ですが、こういう事例がいろいろな形で出ていますので、町田市も図書館としてもそれなりの年数がたっていますけれども、地域としての記録をうまく残していく仕組みもぜひ考えていっていただきたい。そんなことも考えてみました。

情報提供ということでお話しさせていただきました。要項集がございしますので、必要な委員があれば後でPDFでお送りしたいと思います。

あとほかによろしいでしょうか。

では、本日の定例会は以上としたいと思います。

—了—